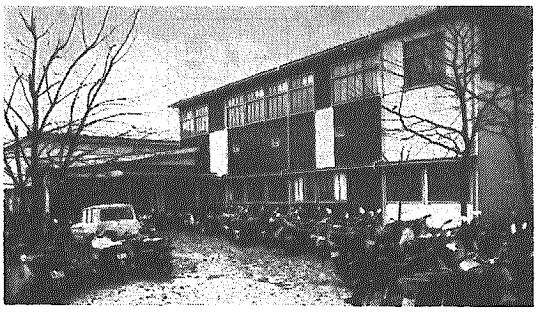
施設のある公民館を視察して

◇…郡内十一カ町村のうち、独立公民館が四館、研修所や体育館などの併設が五館、あとの二つは全く施設を持たない公民館で、この中に岩室村が入る。
去る三月二十二日、三日の二日間、村の社会教育委員会で、施設のある公民館の視察を岩船郡神林村と荒川町に求めて建設の動機などについて伺って見た。…◇

県下で一番新しい

神林村公民館



神林村公民館

羽越線岩船町駅に下車し二分とも歩かないうちに、役場と隣り合せに茶褐色とクリーム色、青い屋根というモダンな建物が目につく。これが神林村公民館だ。

この公民館は三十九年八月、総工費一、四三〇万円（うち国庫補助二五〇万円、起債二五〇万円）で起工し四十年一月に出来あがった。

県下では最も新しい公民館である。

建築の動機は住民の要望と婦人会から米一升拠出運動の展開等があり、三十九年度当初、無速に公民館建築の気運が盛り上がり、村長からのお声がかりで現在の公民館が出来たという。

ステージづきの八十四坪を有する講堂、談話室、大広間、小会議室、学習室、図書室、料理実習室、農業実習室や農事放送室等からなり、いづれもセンスとアイデアが活かされている。

特に農事放送室は一、八〇〇の有線加入者の交換台と役場庁内電話の交換台もあり、広報活動はすべてここでなされるので、非常に効率的に出来ている。

建築面積一九九・三四坪、床面積二七五・二五坪、木造二階建一棟と鉄骨ブロック建一棟からなるこの公民館の利用者は実に多いという。

丁度この日、稲作関係の講演会があり、講堂は四〇〇名近くの人が集まり、館外では自転車やバイクで屏をめぐらしたようになっており、施設あっての人集めが出来ることを、まざまざと見せつけられたように感じた。

公営結婚が65組

町長の公約で建てたデラックス公民館

羽越線から米坂線の分岐点、坂町駅で下車し、街なみがややはづれかけたところに役場庁舎があり、その奥に近代的な建物がある。

これが人口一万一四〇〇人を有する荒川町公民館である。

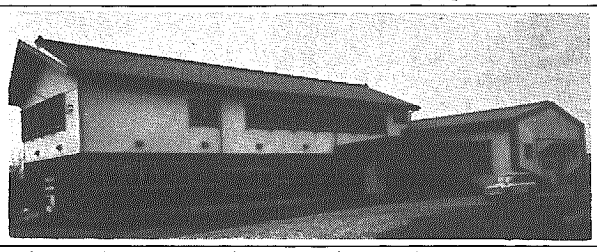
入口の四枚の大きなガラス（？）戸は完全に内部をシャットアウトして、玄関内を外から見ることが出来ないが、内からは外景がよく見える。

この戸はそんじょそこらにある品物とは違い、一枚十万円もすると聞いてブッタマゲた。

来訪の意を急げ、応接室へ通され、落ちつきのある調度品に目を見はる。

早速このデラックスな公民館の建設経緯について聞くと、これは三年前、町長が立候補するときの公約により建てたもので、他からの寄附は一銭受けていないという。

三十九年五月着工し、十月十日竣工したこの公民館は木造二階建、延二〇一坪、工事請負費一、一八四万八千円で備品関係だけで二四〇万円を備え、これが竣工の前日までに一切が揃えられ、翌日からすぐ利用出来たという。まさに驚異に値するものがある。



荒川町公民館

床の間づきの会議室や集会室などの豪華さは、筆跡などではとても表現出来ないものがある。

ここを利用しての公営結婚が年間六十五組もあり、公民館で一組二十万円もする着物を二組も用意して無料で貸与しており、新生活運動の推進にも一役かっている。

畳などは半年で表替えをやり、一年で全部取り替えるという。

こんなスバラシイ、デラックスな公民館なら誰れでも来たくなる事受けあい。

来ないでくれともいいたくなりはしないだろうか？

我が岩室村でも、中学校の建築が終るまでは何んともいたしかたないとしても早く住民が個人家庭で味わえない何かを求めて、気やすく集られる社会教育施設を建設して欲しいものである

青年学級生がビニールハウスを見る

青年学級生の園芸クラブ員が三月二十一日、ビニールハウスでキュウリの栽培をやり、実績をあげている吉田町大字本町、加藤十一郎氏を訪ね熱心に勉強した。

加藤氏の話しによれば、今年で三年目で、初年度は失敗、昨年は坪当り千五百円から二千五百円の収益をあげ、一、二〇〇坪の栽培で二四〇万円からの収益を得た。

今年は更にハウスの坪数が増えたので、栽培技術の向上とあいまって、今後の成果が期待され、先き行き明るい見通しがたてられている。

早くも小指位のキュウリの先に黄色い花をつけていた

第四回 村民登山大会

公民館、山岳会、青年団の共催により残雪期の「焼峰山」（標高一、〇八五・八米）の日帰り村民登山を実施いたします。

参加希望者は会費を添えて二十日までに公民館宛申し込みください。

行程表をさしあげます。

○期　日　四月二十四日
○会　費　一人　三〇〇円

参加賞をさしあげます。